2026 年 11 月 19 日

上智大学　基盤教育センター長

基盤教育センター特任教員公募

上智大学では、基盤教育センターが提供する全学共通科目を担当する特任教員を下記により公募いたします。

記

1. 所　属：上智大学基盤教育センター

2. 採用職名・人員：特任助教１名　（契約は１年毎の更新・任期上限５年）

専門分野：以下の教育・研究領域のいずれかに該当すること。
・「身体文化」 身体文化、スポーツ人類学、など
・「スポーツ文化」 スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツと SDGs など
・「共生社会」 ダイバーシティ教育、ジェンダー教育、アダプテッドスポーツなど

3. 担当科目および職務：週 5〜6 コマの科目を担当いただく予定。
   ① 初年次の学生を対象とした全学共通科目必修科目「身体のリベラルアーツ」の担当（科目の内容・形態については添付の書類を参照のこと)。
   ② 自分の専門あるいは上記科目と関連した２年生以上の全学共通科目（講義・演習・実技など）の担当
   ③ その他、基盤教育センターおよび大学が必要とする業務
   ＊変更の範囲：法人の定める業務等

4. 勤務地：四谷キャンパス
   ＊変更の範囲：法人の定めるキャンパス

5. 応募資格：
   ① キリスト教（カトリック）を基盤とする上智大学の建学の精神と教育理念に理解があり、同意する者
   ② 博士の学位を有する者（含、採用予定日までに取得見込み)、または同等の能力があると認められる者（大学またはそれと同等の教育機関での教育歴があることが望ましい）
   ③ 上記にある職務を遂行するのに充分な能力を有する者
   ④ 本学の特色である「身体知」教育について、自身の専門分野の視点から、開発と探求に貢献できる者
   ⑤ 保健体育関係科目の教育歴があり、複数の実技科目の担当が可能である者
   （チームスポーツや球技、バドミントンなどを担当できることが望ましい）
   ⑥ 英語による授業を担当できることが望ましい
   ⑦ 教育、研究に熱意があり、センターに関連する業務に積極的である者
   ⑧ 大学が必要とする業務に従事できる者

6. 待　遇：
   ① 授業期間：４月～８月初旬、９月下旬～２月初旬
   ② 給与：本学規程による（但し年俸制）
   ③ 休日：学年暦、学事日程による
   ④ 個人研究費：本学規程による
   ⑤ 研究室：あり。机、椅子、電話、ネットワークのプラグあり（パソコンはなし）
   ⑥ 社会保険: 私学共済、厚生年金、雇用保険、労災保険に加入

7. 採用予定日：2027 年 4 月 1 日

8. 提出書類：
   ① 履歴書
   ② 研究業績リスト
      ※ ①および②に関しては、JREC-IN Portal の「応募書類作成ツール」機能を用いて作成してください。なお、ツールに入力しただけではファイルはできませんので、改めてご自身で出力いただき、PDF ファイルを作成ください。
   ③ 主要業績のコピー（３点まで。単著による書籍の場合は下記にある照会先メールアドレスに一度照会ください。）
   ④ スポーツ競技歴・指導歴（これまでの競技歴および指導歴について、また授業で担当可能な種目についての指導レベルなどをあわせて必ず記載のこと）
   ⑤ 教育歴のある場合にはその概要（担当科目名と各科目の内容を 100 文字以内）
   ⑥ 研究概要：これまでの研究成果と本学での研究の展開について（Ａ４サイズ１枚程度）
   ⑦ ネットなどのデジタルなコミュニケーションが当たり前となり、AI や仮想現実が進む時代における「身体知教育」の可能性について、自らの考えと自身ができる貢献についてまとめた抱負（Ａ４サイズ１枚程度）
   ⑧ 本人の研究・教育について評価できる方（２名）の連絡先
   ※提出された書類は原則返却いたしませんので、ご了承ください。
   ※提出書類に含まれる個人情報および電子データについては厳重に管理し、今回の採用審査のためのみに使用します。

9. 応募方法：
   JREC-IN Portal からの Web 応募のみとなります。「8.提出書類」にある書類をいずれも PDF 化して圧縮したうえで ZIP ファイル形式にまとめて JREC-IN Portal Web 応募より提出してください。

10. 応募締め切り：　2026 年 12 月 18 日（金）17：00（JST）必着

11. 選考方法：　１次選考：書類審査
    ２次選考：面接および模擬授業（１次選考通過者のみ、2027 年 1 月中旬から下旬を予定）
    ※ 模擬授業の内容については、１次選考通過者に別途連絡いたします。

12. 照会先　上智大学基盤教育センター　メール：saiyo-clel-co@sophia.ac.jp

以　上

身体知領域「身体のリベラルアーツ」共通シラバス

1. 授業の概要：

身体知領域では、身体性が問われる現代社会の中で、身体の側面からの人間理解を試みる。
この授業では「他者のために、他者とともに生きる人間」を目指す上で基盤となる、自分自身の「身体＝存在」への気づきを基礎として、身体を通じた自己・他者・外界とのコミュニケーションを体感するアクティブラーニング（実践や体験学習）に重きを置きながら、ウエルネス、スポーツ、身体、文化など様々な題材から、一人ひとりの身体の知を涵養する機会を提供していく。

2. 到達目標(授業の目標):

- 身体、こころ、スピリチュアリティの総体としての「からだ（soma)」に気づき、考え、表現し、行動する力を育てる。
- メディアとしての身体に気づき、考え、表現し、知を共有する力を育てる。
- 身体の視点/地平から健康・文化・社会に関わる課題に気づき、批判的に考え行動する力を育てる。
- 身体の気づきを個から他者、環境との関わりへと広げ、多様な現代社会の課題を創造的に考え行動する力を育てる。

3. 授業時間外(予習・復習等)の学習内容と時間の目安(あるいは分量)

毎回の授業後は以下の学習（合計 200 分）を行うことが求められる。
本講義では、事前資料による予習の他に、学んだ内容の復習（実生活での実践）と継続課題作成（生活習慣の記録）を授業時間外に行う。

- ノート・メモ等と授業資料を利用して内容を復習する（20 分）
- 継続課題として生活習慣を記録する（20 分）
- 授業内で学んだ身体活動を生活に取り入れて実践する（140 分：20 分/日）
- 講義や実習に関わる事前資料を読み、関連する情報について調べ理解しておく（20 分）

4. 評価基準・割合:

授業参画 50%＋課題提出 50%
出欠と授業内での参画および授業内で出される課題の提出等で評価
7 回の内欠席を 3 回以上した場合不合格とする。

5. テキスト(教科書)

授業時に適宜資料を配布する。

6. 参考書

書名：身体のリベラルアーツ
著者名：上智大学基盤教育センター身体知領域編
出版社：(株）プリントボーイ

7. 講義スケジュール

1	はじめに：出会いのセッション　知としての身体を考える （内容）履修方法・授業内容説明・授業コンセプトの共有 ※2～6回の実施内容や順序はクラスによって異なる。詳細は授業時に説明する。
2	身体のアンソロジー　自分を取り巻く身体と社会について考える
3	メディアとしての身体（内から捉える身体1）
4	メディアとしての身体（内から捉える身体2）
5	メディアとしての身体（交流する身体1）
6	メディアとしての身体（交流する身体2）
7	まとめ：“わたしの身体“から社会へ　学びのEmbodiment(身体化)

内容補足

1. はじめに

・　「身体」の概念をひらく。「身体の知」とは何かを自分や他者の身体経験から考える。

2. 身体のアンソロジー

・　身体をとりまく多様なテーマ（ウエルネス、健康、スポーツや身体文化）を取り上げ討議することにより、一人ひとり異なる身体を生きる他者との違いや自分にとっての意味を考える。

3. メディアとしての身体(内から捉える身体)

・　呼吸や姿勢、フィットネスなど、内なる身体感覚に目を向けるさまざまな身体のレッスンを通じて自分が何を感じているかに気づき、他者や環境とかかわりあいながら変容する自分の身体（存在）と出会う。

4. メディアとしての身体(交流する身体)

・　ペアやチームで共に動き、さまざまな環境に身を置く身体経験を通じて、他者や集団、環境とかかわりあいながら変容する自分の身体（存在）の在り方を考える。

5. まとめ

・　体験からの学びを振り返り、一人ひとりにとっての「身体の知」について討議し、今後の学びや生き方へのEmbodiment（身体化）を考える。また健康やスポーツ、多様な身体技法や表現をテーマとする200番台の「生きて動く」科目群や、身体からみた文化や社会、環境とのかかわりを学ぶ高学年向け科目へと連携させていく。